



※裏面は型紙(原寸大)になっておりますので
あわせてご利用ください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

※機種により多少デザインが異なる場合があります。

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをするおそれがあることが想定される内容を「警告」・「注意」の2つに区分して示しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

絵表示の例

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作をしてけがをするおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 製品とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用しして可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けると
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分に給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

注意

- 浴室など湿気の高い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること
腐板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事【設置のための下地工事等】
 - 配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - 管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前より手前にはみ出さず設置しないでください。排気効率が低下します。
- 扉外壁面の排気口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h 時 50Pa以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極度に曲出したダクトは排気効果をいじり下低くしたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cmになるようにしてください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用座付ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
また、横方向50cm以上離して取り付けください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集されませんが、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し体内面に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてみてください。

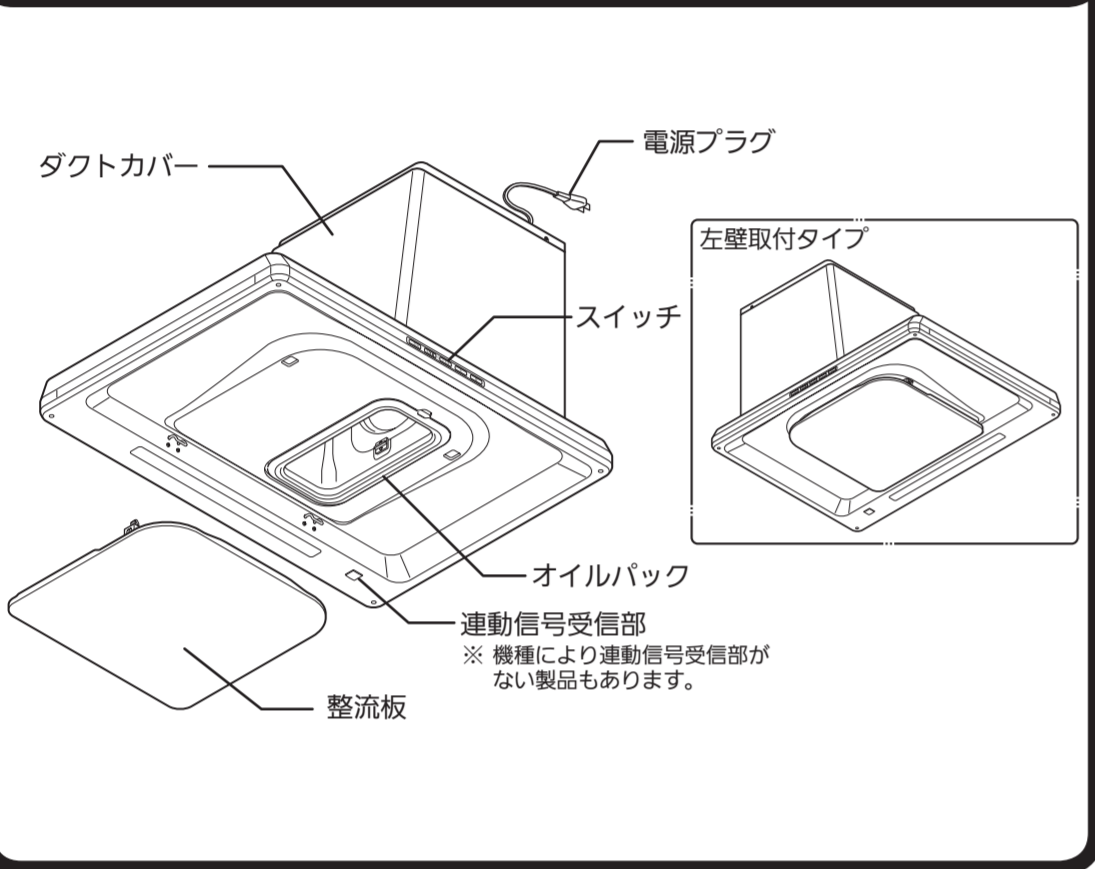
取り付け前の調査と準備

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作をしてけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 製品とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用しして可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

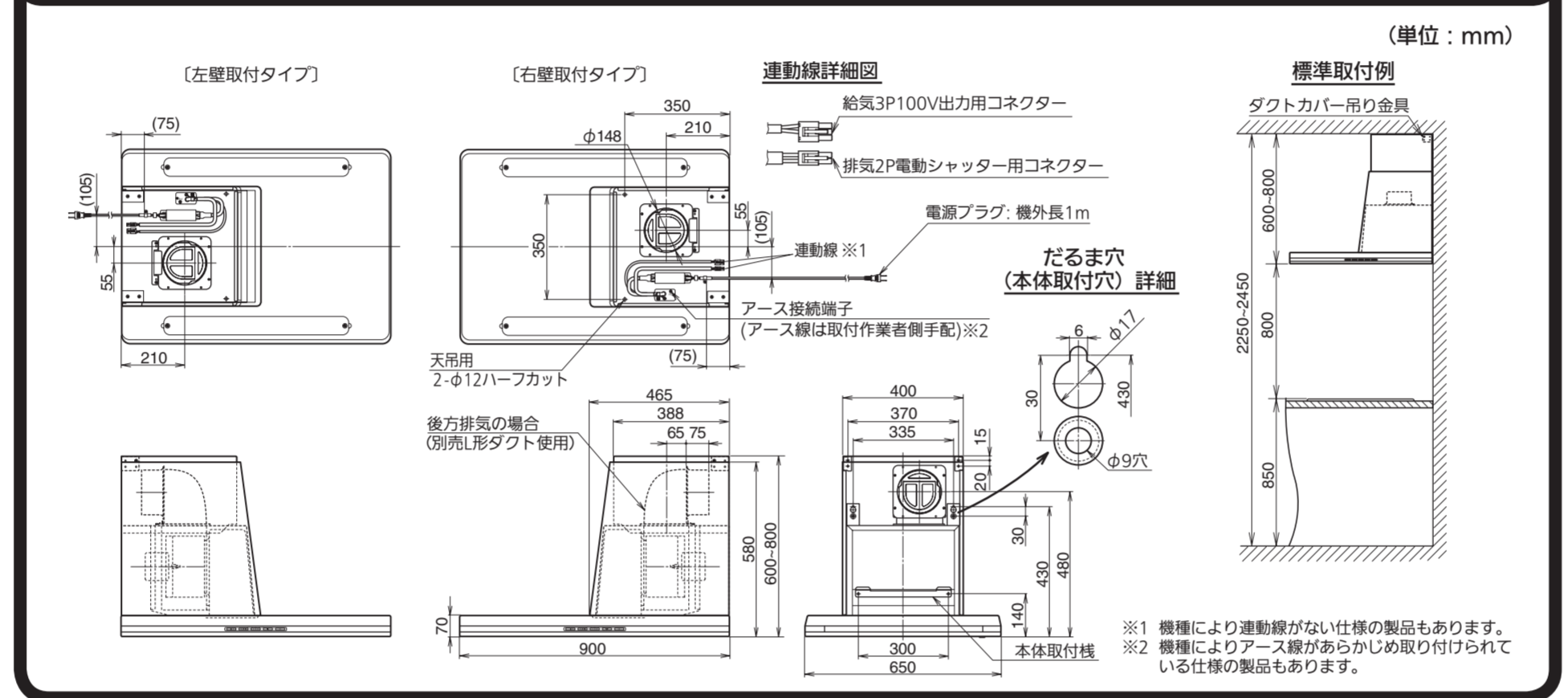
注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること
腐板の切り口や角でけがをするおそれがあります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。 **製品質量 31kg**
- 板張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
● 厚さが20mm未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 厚さが20mm以上の場合は補強板の必要はありません。
- コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールブラ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじ壁に埋め込んでください。
- 2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで80cmです。
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となります。
- 4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器15A 125Vをご使用ください。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

- 座付ねじ(φ5.1×45) 10本
本体およびダクトカバー吊り金具の取り付けに使用します。
- 化粧ねじ(M4×8) 2本
ダクトカバー内側スライド部の固定に使用します。
- トラスねじ(M4×10) 2本
ダクトカバーの取り付けに使用します。
- ソフトテープ 1本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使用します。
- 排気口 1個
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。
- 本体取付枠 1個
本体の取り付けに使います。
- ダクトカバー 1個
ダクト取付部をカバーします。
- ダクトカバー吊り金具 2個
ダクトカバーの取り付けに使います。

取り付けかた

1. 付属品の確認

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
腐板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 付属品を確認します。
- 梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。
- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「8. 試運転」まではずさないでください。(図7-1)
- 床で作業する場合、本体および床に傷を付けかねため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

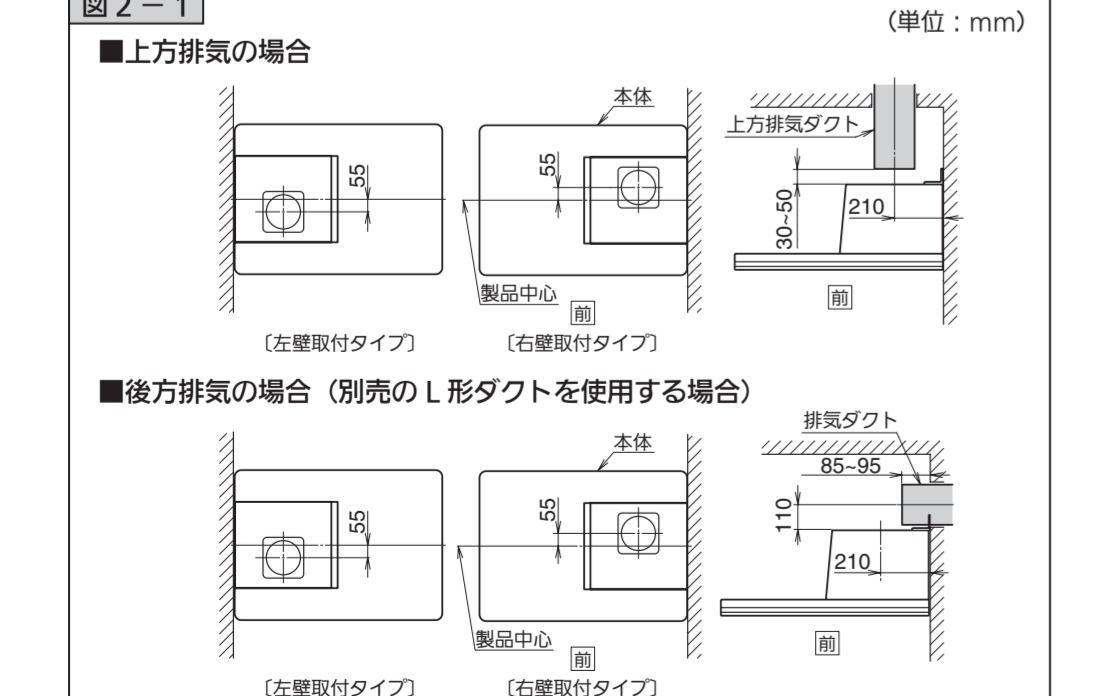
2. 排気方向の決定

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 製品とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用しして可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

3. 排気用品の準備

- 浴室など湿気の高い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

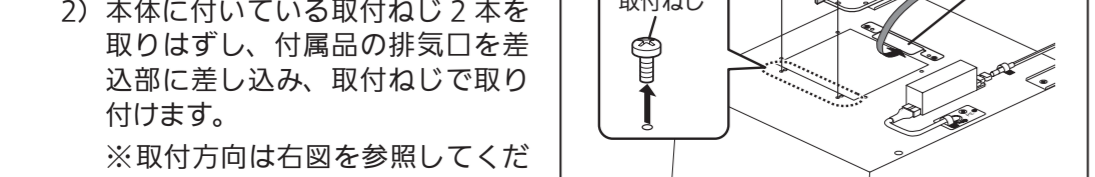
- 1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。
- また、コンセントの位置を確認してください。(図6-1参照)
- 2 φ150のステンレスダクト、またはパイプダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(コンクリート、タイル、土壁の場合)(図2-1)



4. 本体の取り付け

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。
● 水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)がオイルバックにたまりやすくなるため、各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
● キッチンパネルの上端部にレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに埃み込み部材は不燃性のものを使用してください。
● 排気工事は可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用しして可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください



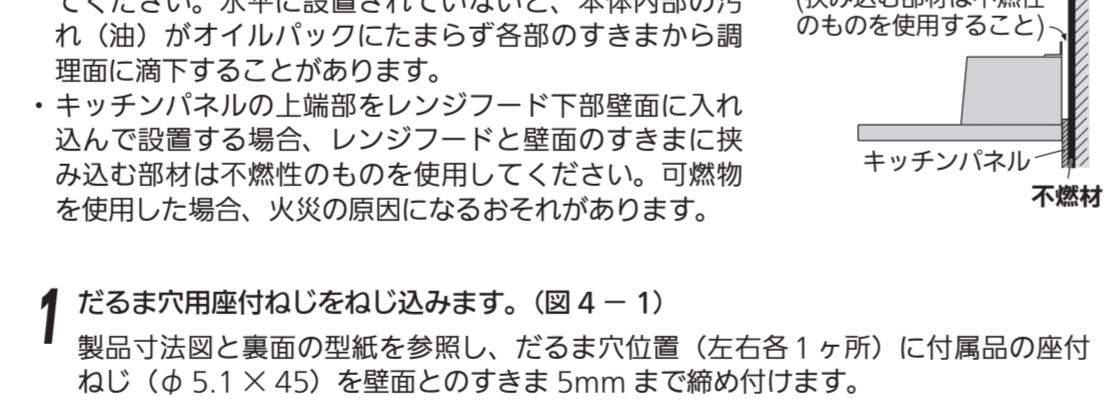
2. 排気方向の決定

- 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)(図3-2)
- 排気口に付属品のソフトテープを貼り、L形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉まるように取り付けます。
排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ(M4×8) 4本でL形ダクトに取り付けてください。
※ 本への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。(図5-2ダクトと排気用品の接続参照)
- L形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開閉方向に注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。
- 正しい接続例
- 誤った接続例

3. 排気用品の準備

- 浴室など湿気の高い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

- 1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図4-1)
- 製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2 本体取付枠を取り付けます。(図4-1)
- 本体取付枠の取付位置に合わせて付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本で本体取付枠を固定します。



4. 本体の取り付け

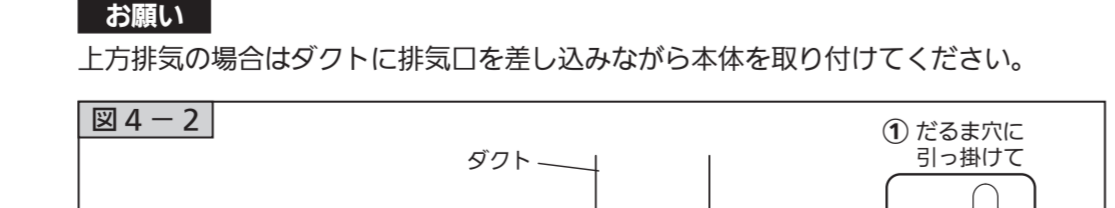
- レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。
● 水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)がオイルバックにたまりやすくなるため、各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
● キッチンパネルの上端部にレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに埃み込み部材は不燃性のものを使用してください。
● 排気工事は可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用しして可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください



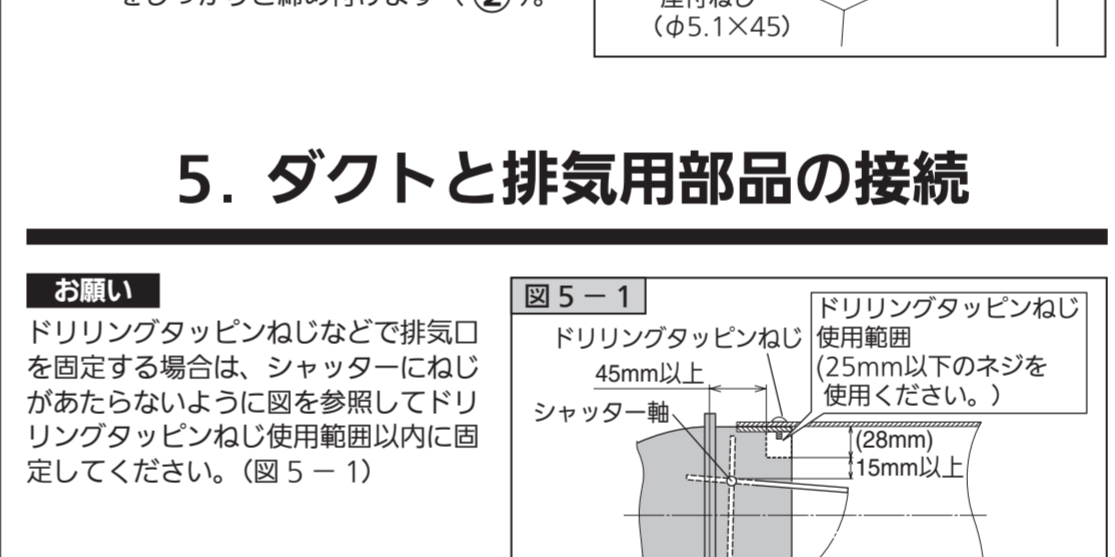
- 3 本体を引っ掛けます。(図4-2)
- 本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(1)、本体背面の溝を本体取付枠に引っ掛けます(2)。

● 上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。



5. ダクトと排気用品の接続

- ドリリングダクト用ねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングダクトは使用しないでください。(図5-1)



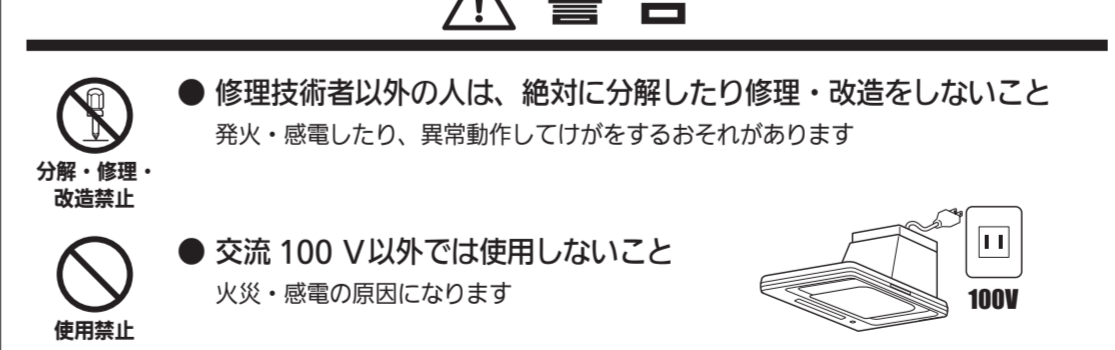
6. 電気配線

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作をしてけがをするおそれがあります

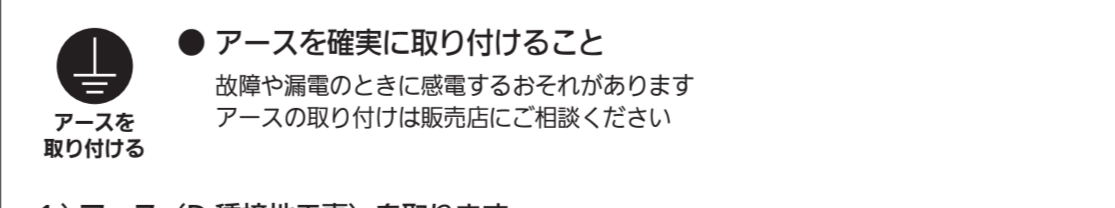
- 上方排気の場合
- ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-2)
- 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)
- 1 排気口を取り付けます。(図5-3)
- 本体排気口取付位置に取り付けている取付ねじ2本をはずした後、L形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ2本で取り付けます。
- 2 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-3)
- 排気口設置面の漏風確認のお願い(図5-4)
- 排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(製品天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風の場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。

7. ダクトカバーの取り付け

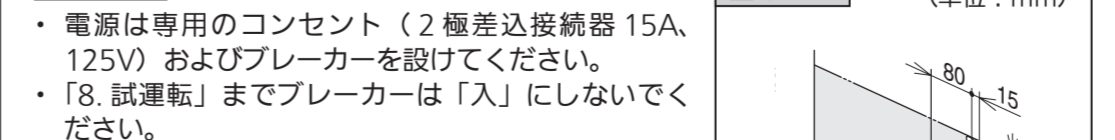
- 製品の前面の保護用クッション材と固定テープを一度取りはずします。



- 1 製品の前面の保護用クッション材と固定テープを一度取りはずします。
- ※ ダクトカバーの取り付け完了後に再度使用します。(図7-1)
- 2 取付位置を確認します。
- 製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。(図7-1)



- 3 ダクトカバー吊り金具を取り付けます。
- ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 4本で取り付けます。(図7-2)
- ※ レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けください。



- 4 ダクトカバーを前面を付属品のトラスねじ(M4×10) 2本で本体に固定します。(図7-4)
- 1) ダクトカバーを壁際まで持っていき、引掛けねじの手前をフード天面に突きませます。スライドさせながら、引掛けねじを切り欠きにはめ込みます。(図7-3)



- 2) ダクトカバー前部を付属品のトラスねじ(M4×10) 2本で本体に固定します。(図7-4)
- 3) ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8) 2本でダクトカバー吊り金具に固定します。(図7-5)

8. 試運転

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。

- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気量が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 扉外排気口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付け後は各種工事に発生した不具合が修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明しててください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 **富士工業株式会社**
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1-9
TEL 042(768)3754 (営業部)

原寸大型紙 (寸法単位は mm)

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

お願い

この型紙は湿気の影響で2~3mm 誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。

